



じょうない れっと
城内 玲十 ちゃん (井田)

令和3年5月7日生まれ
亮さん & 歩実さんの三男

こんにちは、れっとです。アンパンマンが好きでいつも上下アンパンマンの服を着て、にーに、ねーねと一緒に遊んでもらってます。特に、にーにの背中に乗って色々連れてもらってます。これから元氣一杯に楽しくいきましよう♡…お母さんから



はぎの りあ
萩野 莉葵 ちゃん (井田)

令和3年5月17日生まれ
梓さんの次女

こんにちは、歌とダンスが上手なりあです。好きな音楽が流れるとノリノリでおどっています。これからもおねえちゃんと仲よく元氣に育ってね♡…お母さんから

【募集】満3歳の誕生日を迎える子ども(令和3年7・8月生まれ)を募集します。ご希望の方は、広報係(☎33-0334)までご連絡ください。申込期限は5月31日(金)。



PROFILE

ふくだ まさし さん

さまざまな活動をされている福田さん。「これからの人生は超多忙なスローライフを楽しむことです。」と話していました。



沢カフェで提供している手作りドリンク

タイトルの句は、俳句を始めて最初に詠んだ句です。凶鑑の「藪枯らし」の一文を引用すると、「役にも立たず別段の取り柄もなく、しかもこの草が茂ると藪も樹木も枯れてしまふ」とあります。しかし、そんな藪枯らしも秋にな

藪枯らし役に立とうがなかるうが

福田 将志さん(浅里)

れば、小さな可愛い花が咲くので、役に立つかは人間の価値観で、藪枯らしは藪枯らしである。そう詠んだ句です。

僕は、横浜市鶴見区に生まれ、兵庫県尼崎市で育ちました。光化学スモッグに覆われた工業地帯で成長



し、20代、30代は東京で過ごし、紀南地域に移住したのは40歳の時です。現在、飛雪の滝キャンプ場のそばで暮らしています。

都会の暮らしは、一度歯車が狂うと深い闇から抜け出すのは至難の技、自分が何の役にも立たない人間のように思える日々を悶々と過ごしていたこともありました。

自分が自分でいいんだと割り切れるようになったのは、この町で暮らし始めてからです。「なぜ紀宝町を選んだのですか？」とよく人に聞かれますが、「僕が選んだわけではなく、紀宝町が僕を選んだんです」なんて格好つけて答えています。ここには本物の自然があり、歴史があります。そして僕には役割があります。

仕事は、紀宝町社会福祉協議会でケアマネージャーをしています。誰もが自分らしく最期まで生きられるように支援をするのが、

楽器をこれからも続けていきたい!!

森 雅貴 さん(鶴殿・20歳)

◆お仕事は？

この4月から、紀宝町役場に勤めていて、主に広報や観光に関する業務をしています。町内の学校行事やイベントに、カメラマンとして顔を出すことがよくあるので、見かけた際はぜひ話しかけてください。

◆趣味は？

趣味はゲームやアニメ、漫画などのインドアなものばかりです。また、学生時代から続けているトランペットを今でも休日に吹いています。

◆好きなタイプは？

表情豊かな人が一緒にいると楽しい気持ちになります。

◆旅行に行くとしたら？

静岡県の沼津市に行ってみたいです。僕が好きなアニメの舞台となっている町なので、アニメで見た景色を実際に見てみたいですね。

◆町ごとについて

のびのびと子ども時代を過ごせたこの町に感謝して、これからは役場職員としてがんばっていきます。